



ひみつ道具

「ドラえもん」のマンガやアニメには、「のび太」がドラえもんをお願いをして出してもらった「ひみつ道具」が毎回登場します。あるといいなあと思えるものが多くあります。近い将来、似たようなものが発明されるかもしれないと思われるものもあります。そして、そのひみつ道具、また、それを使うのび太の姿には、何らかのメッセージが込められていると思います。…こんなことを考えてドラえもんを見る人はいないかもしれません。

ひみつ道具は、はじめのうちは、のび太が困っていることを解決してくれるように思えるのですが、途中から、使い方や使う目的がおかしくなり、最後には、逆の効果になってしまうなど、結局、道具に頼っていたら根本的な解決にはならない…というパターンが多くあります。



【その1 かならず当たる手相セット】

はじめは道具を使って、手相がピタリと当たり、のび太がお小遣いをもらえるなど、うまくいくのですが、途中から脱線し、はずればかりになります。すると、のび太は「手相なんて気にしているときりがない。ぼくなり、がんばっていくよ。」と言うのです。そして、ドラえもんから「えらい！ のび太くん！」とほめられるのです。



【その2 コンピューターペンシル】

この道具を使えば、のび太でもテストで100点をとることができます。テストの前夜、テストにこの道具を使おうとするのび太をドラえもんは怒りますが、のび太は「かまうもんか！ 明日絶対に使ってやるぞ！」と言って寝てしまいます。しかし、テスト直前、のび太の脳裏には、ドラえもんの顔が浮かんでくるのでした。そして、「やめた！ 普通の鉛筆でやろう。」とひみつ道具を使うのをやめるのです。

これらの話には、自分に起きた問題は、道具に頼らないで、自分の力で解決していくことが大切なんだというメッセージが込められていると思います。のび太にとってのひみつ道具とは、

- 自分のいいところを確認できるもの
- 自分の足りないところを後押ししてくれるもの
- まだ自分で気づいていない力を教えてくれるもの だと思ふのです。

実際に、子どもたちにとって、これらのことを感じさせてくれるのは、親であり、友だちであり、教師です。ということは…、**親・友だち・教師は、子どもたちにとっての「ひみつ道具」といえるのです。**

どんなに勉強ができなくても、どんなに喧嘩が弱くても
どこかに君の宝石があるはずだよ。
その宝石を磨いて磨いて、魂をピカピカにして魅せてよ。
ドラえもん (藤子・F・不二雄)



下半身マヒの女性がいました。
その女性は、左手も思うように動かせないので、
車いすを自分で動かすことができません。
外出、お風呂やトイレでの介助など、
すべての世話はお母さんの役目になっていました。



ある年のことです。
彼女を含めた障害をもった方々のために、
七夕パーティが、ボランティアの人たちの手で開催されました。
みながとても楽しそうに飾りつけをしていました。

私が、彼女に、「短冊はもう飾ったの？」と聞くと、
「はい、私の願いは一つだけなので、短冊は一つ飾っただけです」と答えました。

「一つだけ？ なんて書いたの」と聞くと、
「お母さんより一日だけ早く死ねますようにって書いたんです。
お母さん、ずっと私の世話ばかりだから。
私はお母さんがいないと困ってしまうけれど、お母さんには、
私の世話をしなくてもいい日が一日でもあって欲しいな！ って思ってた」

彼女は笑顔でそう言ったのです。
私は感動してその話を、彼女の母親に伝えました。

すると、彼女の母親は、「私も短冊に願いごとを書いてきますね」と言って、
向こうへ行ってしまいました。
飾りつけが終わってから、彼女の母親に、「短冊は飾りましたか？」と聞くと、
「ええ、あそこに」と上のほうを指さしました。

ちょっと高い所だったので何て書いてあるのか読めません。
「何て書いたんですか？」と聞いてみると、
「ぜいたくを言わせてもらえば、娘より一日だけ長く生きさせてくださいと書きました」と、
娘さんと同じ笑顔でした。

そして、「自分が楽をするために、一日長く書いたのではありません。
あの子が安心して天国へ行けるようにと思ひまして。
一人ではお手洗いにも行けない子ですからね」と続けたのです。

「人の心に灯をともし」より

